77巻2号　2022年4月1日

YAA 天文会報

（4～6月号）

792号

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402
正木　仁　方
Mail: masaki@e08.itscom.net
HP: http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html

横浜天文研究会

NGC2359　　撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

ようやく春らしい日々を迎えました。そして春霞…透明度の良い星空はしばらくの間お預けです。

まず4月の天象です。宵の空にはまだ冬の星座が見えていますが、時間とともに主役は春の星座に移っていきます。流星群はこと座群が有名で、今年は23日午前4時頃が極大と予想されています。下限近くの月明かりがありますが、南天に低いので影響は少ないと思います。天気の条件が良ければ1時間に5個程度は見えるかもしれません。29日に水星が東方最大離角となり、20日から5月7日までは日没時の高度が10度を超えるので見やすくなっています。25日から28日にかけて夜明け前の東の空で、月が土星・火星・金星・木星のそばを通っていきます。

5月は、1日に明け方の東の空で木星と金星が接近し、月末には4月と同様に土星・火星・木星・金星に月が接近していきます。6日17時ごろみずがめ座η流星群が極大になります。見ごろは5～7日の夜明け前です。月明かりの影響はなく、1時間に数個程度の出現が予想されます。

6月、早いものでもう夏至になります。日の入りが遅いので得した気分になります。そのぶん星を眺める時間が短くもなりますが…　中旬から下旬にかけ、夜明け前の空にすべての惑星が勢ぞろいします。その中で見るチャンスが少ないのが水星ですが、16日に西方最大離角となり見やすくなります。

下の写真は、今年の1月4日の日没後の薄明の残る西空で、細い月と水星、内合直前の金星が近づいた時の様子です。

冷やし中華の行方（２）

山形幹夫

さて前号で記述したように、撮像素子が小さい１インチサイズカラー冷却カメラは星雲星団等の撮影には使用しないつもりでいますが、面積が小さい銀河、星雲などは素子サイズが小さくても有効にそれを捉えることが可能です。今年の冬も新年になってから全く撮影に出かける機会が無かったため、昨年中に撮影した画像を紹介します。まず左は月面です。f=1000mm、25cmニュートン式望遠鏡で直焦点撮影しています。素子サイズは11×11mmですので、この焦点距離で月の全球が丁度収まります。月食の撮影には良いでしょう。元画像の約1/4をトリミングしています。尤も月面の撮影にカラーカメラは最適ではなく、色味の無い月面はモノクロカメラで撮影した方がグラデーションの豊かさと緻密さが優れています。撮影は32msで動画撮影し、画像をスタックしています。月面撮影はオートガイド用のモノクロカメラを使用する手があると思います。

右はおうし座のNGC1514惑星状星雲です。色味がきれいに表現できました。撮影データは望遠鏡・カメラ・撮影日・撮影地は表紙画像と同じ、GAIN：280、露光時間180秒×9ショットをコンポジット、元画像の約1/4をトリミング。

両方共元画像面積の約1/4をトリミングして切り取っていますが、この程度の表示サイズですと画素の粗さは目立ちません。月面の方は15インチモニターの壁紙にしても全く粗さは感じません。皆さんのカメラ選びの参考になれば幸いです。小生はこのカメラについてブツブツ言っていますが、先日観測所の仲間がこのカメラを購入しました。APS-Cサイズのミラーレスカメラボディーのみと同程度の価格です。

表紙画像：おおいぬ座 NGC2359トールの兜星雲
望遠鏡：口径25cm、焦点距離：1400mm、カメラ：ZWO ASI533MC Pro
冷却温度：-15℃、GAIN：280、露出：180秒×30ショットをコンポジット、
撮影日：2021年11月4日、撮影地：長野県富士見町入笠山

日月星の伝承を訪ねて（71）

横山好廣

長井漁港及び周辺の調査記録①

●調査地　神奈川県横須賀市
　　長井町、佐島、林
　　(調査時の大字名)

＊右地図(横須賀市)
『角川日本地名大辞典』
角川書店（1984）から転載

◎昭和 57 年(1982)8 月 25 日、9 月 5・15 日

横須賀市長井町新宿漁港、荒井漁港付近における調査。

話者は延べ 7 人、明治 30 年～41 年生れの漁師。

長井町は小田和湾と相模湾に面する漁業の盛んな処で、四つの漁港(長井・新宿・漆山・荒井漁港)を擁し、漁村の景観を呈している。かつての長井湊(現・新宿港)は小田和湾内の入海で、難風や潮がかりなどのときに廻船が入ってきたそうだ。また、長井湊は江戸への鮮魚運搬船・押送船を数多く保有し、三浦半島西部では特に賑わっていたようである。なお、町の南にある荒崎は広く知られている景勝地である。　　参考『新横須賀市史』横須賀市(2013)

・ヒトツボシ（北極星）

「方角の見当をつける星で、昔のコンパスは、十二支で方位を示していた」

「北のほうにあり心棒になっている」

「銚子から青森へ行くにはヒトツボシを目当てにしすると間違いなく着くものだ」

＊かつての長井の漁は一本釣りが中心で、カツオ・サバを獲りに太平洋沿岸を青森まで北上していったそうで、「ヒトツボシ」の伝承はそのことと結びつく話であった。　　参考『新横須賀市史』。

・サンボシ、ミツボシ（オリオン座三星）

「同じ位の明るさの星が三つ並んでいる。」

「西の方に見えると夜が明ける」

・フタツボシ（小犬座α β星）

「東の方からミツボシの間を抜いたくらいの間隔で、二つの星が斜めに上

がってくる」

＊1982.9.5、荒井漁港のバス停近くで二人の明治 41 年生まれの漁師から聞いた話である。この情報だけでは現行の星座と同定することは出来なかった。ところが、『日本星名辞典』に星の和名収集の大先輩である石橋正氏が長井の浜で老漁夫から「フタツボシ」採録し、小犬座αβ星に同定された記事が所収されており、参考にさせて頂いた。その採録の概略は「フタツボシ」は十一月の夜明けに南中し、その高度は彼岸時の太陽の南中高度に相当する。二星の間隔は三つ星の真ん中を抜いた位でその一方は明るいという詳しいものである。これらの事象を基に石橋氏が「フタツボシ」を小犬座αβ星に同定されたことは尤もなことで、僭越ながら小生の拙い採録も石橋氏が採録・同定された「フタツボシ」と同一ではないかと判断した次第である。詳しくは下の図書を参考にされたい。

『日本星名辞典』野尻抱影著　東京堂(1975)

『星の海を航く』石橋正著　成山堂書店(2013)

・スバルボシ、スバルサン（昴星）

「スバルボシ・サンが上がると、夜が明ける」

「スバルの山入りは、麦蒔のさかり」

＊朝方にスバルが西方の山に入る頃が麦蒔きの旬だと言う意味で、長井の生業形態は半農半漁であったことを窺わせる。長井の南に位置する三浦市初声町和田にも似たような伝承があり「すばるの山入り麦蒔きじまい」(『星の方言と民俗』内田武志著岩崎美術社 1977）とある。さらに初声町長浜には「スバル　山入り　むぎまきのす」(『日本星名辞典』）という記録もある。ただ、その具体的な山の名はわからない。ところが、三浦半島東部の横須賀市久比里では「スバルサマが八幡山（現・ハイランド）に朝達すると麦蒔きのス（盛り）だ」と、スバルの入る山が具体的である（『三浦半島の民俗Ⅱ』神奈川県立博物館 1972)。長井や初声町の西方は相模湾なので、スバルの入る山は北寄りの大山・丹沢方面の山ではないかと推理する。三浦半島にはスバルと麦蒔きの伝承が多い。　　（つづく）

YAA の副会長で会長代行をなされていました中島守正氏の訃報に哀悼の意を表します。長年にわたり YAA のためにご尽力され、いつも優しい眼差しで接してくださった在りし日の元気な姿を思い出します。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。　合掌

横山好廣

天　象

相原　榮

4月

水星：夕方の西天で高度を上げる、後半は観望好期　−1.9～+0.5等　うお→おひつじ座
金星：明け方の東南東天、明けの明星　−4.4～−4.1等　みずがめ座
火星：夜半過ぎに東南東天から昇る　+1.0～+0.9等　やぎ→みずがめ座
木星：明け方の東天低空　−2.1等　みずがめ→うお座
土星：明け方の東天　+0.8等　やぎ座

1日　15h24m　新月
5日　04h20m　清明
　明けの空で火星・土星の大接近
9日　15h48m　半月（上弦）
13日　明け方の東天低空で木星・海王星の大接近
17日　03h55m　満月
20日　11h24m　穀雨
23日　04h 4月こと座流星群が極大の頃
　20h56m　半月（下弦）
25～28日　明けの東天で月が土星・火星・金星・木星の近くを通過
28日　明け方の東天低空で金星・海王星の大接近

5月

水星：初旬は夕方の西北西天で観望好期、その後高度低下　+0.5～+3.0等　おうし座
金星：明け方の東天　−4.1～−4.0等　うお座
火星：夜半過ぎ東南東天から昇る　+0.9～+0.6等　みずがめ→うお座
木星：明け方の東天　−2.1～−2.2等　うお座
土星：夜半の東南東天に昇る　+0.8～+0.7等　やぎ座

1日　05h28m　新月
　明けの空で金星・木星の大接近
2日　夕空で月と水星・プレアデス星団の接近
5日　21h26m　立夏
6日　17h　みずがめ座η流星群が極大の頃
9日　09h21m　半月（上弦）
16日　13h14m　満月
21日　10h23m　小満
23日　03h43m　半月（下弦）
25日　明け方月・火星・木星の接近
27日　明け方月と金星の接近
29日　明け方火星と木星の接近
30日　20h30m　新月

6月

水星：明けの東北東天　+3.0～−0.6等　おうし座
金星：明け方の東天　−4.0～−3.9等　おひつじ→おうし座
火星：夜半過ぎの東南東天　+0.6～+0.5等　うお座
木星：夜半に昇り、明け方南中　−2.2～−2.4等　うお→くじら座
土星：夜半前に昇る、観望好期　+0.7～+0.6等　やぎ座

6日　01h26m　芒種
7日　23h48m　半月（上弦）
14日　20h52m　満月
21日　12h11m　半月（下弦）
　18h14m　夏至
23日　未明の東天で月と火星の接近
26日　明け方に月・金星・プレアデス星団の接近
27日　明け方の東北東天低空に月・金星・水星が集合
28日　01h　6月うしかい座流星群が極大の頃
29日　11h52m　新月